

# より良い教育環境を目指して

## 下野市学校適正配置検討委員会の答申内容

教育委員会に報告がなされ、広報しもつけ1月号にてお知らせしました、下野市学校適正配置検討委員会

の答申書「下野市立小・中学校の規模及び配置の適正化について」の概要につきましては、次のとおりです。

### 答申内容(概要)

小・中学校の学校数や児童・生徒数、学級数の推移及び将来的な推計を踏まえ、適正規模・配置の実現に向けて、次の主要観点到に検討し、具体的方法が大きき4つにまとめました。

#### 中学校は現状維持

##### (1)「全市的」観点

現12小学校の配置は、各校の通学区域も狭く一体感が強く、個々の学校及び地域の諸状況に差異があるため、「全市的」検討には馴染まず、

(2)以下の観点からの検討とする。  
現4中学校体制は、旧3町のバランスもとれているため基本的に当面維持する。

#### 通学距離は概ね適正な状態

##### (2)「適正通学距離」の観点

当市学校の通学距離、通学区域は、大小・長短はあるが、国で示す標準的通学距離の小学校4km、中学校6km以内であり、概ね適正な状態にあると考える。

#### 通学区域5か所の見直し

##### (3)「通学路の安全確保」の観点

通学路の安全確保は児童・生徒の生命に直結することであり学校教育上留意しなければならない。特に危険性が高く、かつ地域を分断しているのは、

- 鉄道（JR宇都宮線・東北新幹線）
  - 交通量の多い幹線道路（国道4号線・新4号・352号線、県道）
  - 大きな河川（姿川、田川）等がある。
- これらを毎日横断することによる危険性を取り除くため、①～⑤のように通学区域を変更する。

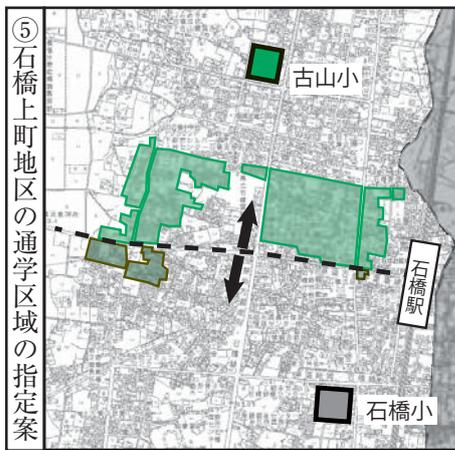
##### ◆通学区域の変更（3ページ地図参照）

- ① 谷地賀地区を薬師寺小から吉田東小通学区域へ編入
- ② 仁良川下地区を薬師寺小から吉田

- 田西小通学区域へ編入
- ③ 塚越地区を吉田東小から吉田西小通学区域へ編入
- ④ 小金井上町のJR宇都宮線東側地区を国分寺小から緑小通学区域へ編入

##### ◆通学区域が重なっている地域の検討

- ⑤ 石橋上町地区の通学区域の指定
- 教育の機会均等の考えにより、現在、石橋上町地区で実施されている「通学区域が重なっている地域」を石橋駅前通りを境とし、北側を古山小、南側を石橋小の通学区域に指定する。



⑤ 石橋上町地区の通学区域の指定案

これら通学区域の変更及び指定については、住民・保護者等の理解・同意が特に重要であり、混乱防止のため一定の経過期間を設ける。

#### 「適正規模化」の検討

##### (4)「適正規模」の観点

各小学校間の教育諸条件の差を解消し、公平性のある教育を目指すためには「適正規模」の検討が必要であり、委員会では国・県の基準、市民等アンケートの結果から「学校の適正規模」を次のとおりとし、それらを基に検討を進めた。

#### 学校の適正規模

小学校	
学級数	1学年 2～3学級
児童数	1・2年生 1学級30人以下 他学年 1学級35人以下
学校規模	206人(2学級最小値～) 600人(3学級最大値)
中学校	
学級数	1学年 4～6学級
児童数	1学級35人以下
学校規模	318人(4学級最小値～) 630人(6学級最大値)

#### 小規模な学校の統廃合

効果的で効率的な学校教育のためには、ある程度の学校規模が必要であり、小規模校においては複式学級の発生も多くの確率で危惧される。

委員会では、次の過小規模校（1～5学級）2校について隣接校との統合を提案する。

(ア) 細谷小は、地理的・歴史的等関係の深い隣接の石橋小と統合する。

(イ) 国分寺西小は、地理的・歴史等関係の深い隣接の国分寺小と統合する。統合後の校舎は当面、国分寺小とする。